

平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業

モデル事業名	既存資源を活かした産官民連携によるまちづくり組織「上士幌コンシェルジュ設立」プロジェクト
対象地域	北海道河東郡上士幌町
活動概要	<p>北海道十勝管内北部に位置する上士幌町は、約700km²の広大な面積を抱え、南部の平野部には畑作や酪農地帯が広がり、北部には大雪山国立公園を中心とした森林が広がっており、農畜産物、豊かな自然、温泉、景観、文化財など多様な地域資源に恵まれた地域である。しかし、上士幌町も北海道内の他の市町村同様、過疎化、高齢化が進む中で、新たな魅力をもつ観光地づくりと併せて、移住・定住の促進等、都市と農山村との交流による地域活性化が緊急の課題になっている。</p> <p>上士幌町では、平成16年度に、健康・環境・観光をキーワードに、町の豊富な地域資源を活かし、その効果を科学的に検証しながら、各々の地域資源について付加価値を高め、都市と農山村との共生・対流による地域活性化を図る「イムノリゾート上士幌構想」を策定し具体的施策を展開してきた。その一つである移住・定住促進については、役場内に移住ワンストップ窓口を設置し、ホームページ等による情報発信や各種問合せや相談に積極的に対応するとともに、生活体験モニター事業を実施するなどして、移住希望者の立場に立った事業を展開してきた。</p> <p>平成19年3月には、商工会や農協などにより、行政と連携して本町の移住・定住事業を進めるため「上士幌町交流と居住を促進する会」が設立され、首都圏プロモーション、不正形等農地・空き家調査、モデル住宅プラン作成等を実施している。</p> <p>また、平成19年度からは、株式会社都市デザインシステムが主体となり、首都圏のファミリーを対象に、行政や地域住民と連携し、町内の廃校跡を活用しながら様々な体験活動を通して都市住民と地域住民との交流を進める林間学校も始まっている。</p> <p>現在、これらの事業はそれぞれ、行政、地元団体等、民間企業などが単独あるいは連携して実施してきているが、より効率的かつ有効な取り組みとするためには、全体をコーディネートしながら主体的に事業を実施する地元民間事業者や地元住民の協力者からなる、まちづくりのための組織「上士幌コンシェルジュ」の立ち上げが必要である。</p> <p>本モデル事業では、都市と農山村の共生・対流を目的とした事業の実施を通して、上士幌コンシェルジュの立ち上げと、その持続的かつ安定的な運営を目指す。</p>

<p>今年度の主な取組</p>	<p>平成16年度より上士幌町にて推進している移住促進・二地域居住は、過疎及び少子高齢化対策に、重要な施策である半面、下記活動内容に掲げたような「ソフト面」の充実無しには成立しない難かしさがある。また、このような「ソフト面」を行政が運営することにより求められる「公平性の維持」が障害であり、対策を推進する為の構造的欠陥であった。提案内容は「民」が主体となったオペレーションに転換することで、よりクオリティの高いサービスを充実させると共に、ヒト・モノが循環することによる永続的な仕組みとし、地域的・地理的・人的資源の活用による、観光・体験・移住を軸とした永続的なまちづくりを実証する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上士幌町コンシェルジュの事務局を担う人材の調査・発掘。 2. 上士幌町コンシェルジュの設立。 3. 上士幌町コンシェルジュ設立及び持続的かつ安定的な運営のための調査・実証実験の実施。 <p>①旅行代理店事業の実証実験</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 廃校校舎を利用した林間学校の企画・運営(通年2回実施) 2) 体験型ガイドツアーの企画・運営の検証(トレッキング・牧場体験・釣り・ツリーハウス制作等) 3) 上記企画の大手旅行代理店からの業務委託の検討 <p>②新商品開発・物品販売事業の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 地元農産畜産物や工芸品等の販売・販売代行検討 2) 新商品企画・開発・販売検討 3) 販売ルートの検討 <p>③不動産管理事業の検討</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) モデル住宅・二地域居住用住宅の管理業務検討 2) 移住促進住宅の斡旋業務検討 <p>④上士幌町移住促進プロモーション事業の検討・実施</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ホームページやブログの企画
<p>活動結果</p>	<p>今回の取組で滞在者に提供した各種コンテンツは概ね好評であり、一定の手応えを感じることができると共に、今後の民主体での活動継続に向けてノウハウの蓄積が順調に進んでいる。また、今回の林間学校のような活動の「核」となるものに企画段階から参加すること、また町民が都市住民と直接ふれ合い、自らが上士幌町の素晴らしさを伝えることで、町内の各主体(特に高校生)のモチベーションの向上とコミュニティの創生が図られた。さらに、これまでの活動実績から地域において取組に参加してくれそうな人のリストアップが進んでおり、こうした人たちを取り込んだ上で、地域主体のコンシェルジュへと軸足を移すための方向性が見えつつある。</p> <p>移住促進プロモーションの入口として作成したホームページでは、短期・長期滞在者の増加や、モデルハウスへの他町村からの視察を受け入れる等、効果的なプロモーションとしての反応を確かめることができた。</p>

<p>当初予想していなかった効果</p>	<p>当初目標とした「上士幌コンシェルジュ」の中心を担う人材発掘の過程において、その入口である「商品開発」では地元と都会の高校生の力を借りた結果、高校生の地域への郷土愛や特産物の発見、また参加者が喜ぶ姿を「やりがい」へと反映させていく仕組み作りを試み、大きな反響があった。こうしたインキュベート(育成)機能を持ち合わせた仕組み作りへと発展させることで、将来的には地元の高校生が地元に残り或いは戻り、都会の高校生が将来地域づくりに興味を持つことへの試金石となった。</p>
<p>実施状況(写真)</p>	<div data-bbox="443 474 1093 896" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1129 593 1492 734" data-label="Caption"> <p>【写真】 林間学校において、高校生による試作品の試食・品評会の様子</p> </div>
<p>応募団体名</p>	<p>上士幌町交流と居住を促進する会</p>
<p>リンク</p>	
<p>部局/担当者名</p>	<p>(事務局)上士幌町役場 企画課 移住・定住担当 主査 須田修</p>
<p>連絡先</p>	<p>01564-2-2111(内265)</p>
<p>推薦市町村名</p>	<p>北海道上士幌町</p>